

第2回 CIEC サタデーカフェ

開催概要

開催日:2021年5月15日(土)20:00~21:00

会場:Zoomによるオンライン開催

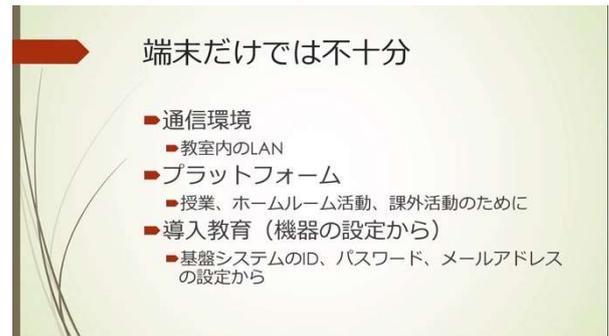
プログラム

20:00 - 20:15 【 話題提供 】

スピーカー:八百幸 大(早稲田大学高等学院)

テーマ:「BYOD への長い道のり」

20:15 - 21:00 【 フロアとのフリーディスカッション 】



4月に第1回を開催し、好評だった CIEC サタデーカフェですが、第2回は早稲田大学高等学院の八百幸大氏がスピーカーを務め、話題提供を行っていただきました。(当初は同校の吉田賢史氏の予定でしたが、急遽変更となりました。) テーマは、「BYOD への長い道のり」でした。同中学校では、2021 年度入学生より WindowsPC(Surface Pro7+)を1人1台導入することになりました。学校では保守的な雰囲気があり、こういった機器を導入することも、これまではなかなかスムーズには進まなかったようですが、コロナ禍による影響も大きく、それに後押しされる形で今回の導入に至ったそうです。検討委員会を11月に立ち上げて1月には機器の選定等を終え受験生やその保護者に説明しなければならないというタイトなスケジュールで進めつつも、学校から提示される条件をうまくクリアしながら最終的に Surface に落ち着いたようです。検討の際に重視したこととして、「大切なのは導入することではなくて、その機器を使って何をさせたいのか」であることや、「せっかく導入するならスペックの低いものですぐに使えなくなるようなことが起きないようにしたい」など、今後の活用の様子をイメージし、様々なところに気を配りながら導入機器を選定されたようです。しかし、端末の検討だけでは不十分で、1人1台の利用に耐えられる LAN 環境の整備や、生徒の ID・パスワードの管理等に始まる導入教育等の苦勞もされているようです。また今回は中学1年生への導入ですが、早速、高校生への導入についての検討も開始しなければならないということでした。これらの話題をもとに、フリーディスカッションを行いました。そこでは様々な質問が出されました。実際に Surface を購入した金額はいくら位なのか、買い替え時期の想定、導入機器のスペックに関わる選定の仕方、機器を学校に持ち込む際のルールについて、機器の重さに関わる生徒の感触、既存教材とPCとの共存についてなど多岐にわたって質疑応答がなされました。また各校での現在の状況も知りたいという話に広がり、参加者の先生方の学校での状況などもいろいろと紹介されました。そこでクローズアップされたのは、国は全国一律で進めています、実際には都心部と郊外、また、公立学校と私立学校の間でも様々なことに差があることが皆さんのお話から見えてきました。さらに、この流れを受けて、今後高校ではどのような対応をとるのかや、数年後に訪れる機器入れ替え時の負担者が自治体なのか、保護者なのか、さらに、小中高から大学への接続についての話にまで広がり、今回のカフェで様々な課題も見えてきました。

今回も15名の参加で、全参加者の方に発言いただけ、短い時間ではありましたが、中身の濃い研究会だったと思います。今後も気軽に参加できるインフォーマルな研究会として、旬な話題を取り上げていきたいと考えています。

お忙しい中、話題提供いただいた八百幸氏を始め、参加者の方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(文責:平田義隆)

